

シルバ・サントス・フェリッペさん

世界各地で活躍する日系人や日系団体のみなさん、もしくは日系人・日系社会に関

わる活動している皆さんにお話を伺うコーナー、「NIKKEIS around the World」。

第10回にご登場いただくのは、ブラジル・サンパウロにある日本語学校「明日香塾」

校長のシルバ・サントス・フェリッペさんです。非日系のフェリッペさんが

どのようにして日本語を学び、日本語教師として学校を運営するに至ったのか。

「前世は日本人だと思う！」と話すフェリッペさんに、恩師との出会いや、日本語・

日本文化に対する想いについて伺いました。

プロフィール



国籍・世代 ブラジル・非日系

職業 日本語教師

ブラジル人の両親のもと、サンパウロ州で生まれ

育つ。習字に興味を持ち、17歳より日本語学習を

明日香塾の創設者である林原和子先生と

はじめる。高齢となった恩師が日本に帰国したこと

を機に、仕事を辞め日本語教師免許を取得。恩師がはじめた日本語学校「明日香塾」

を引き継ぎ、日本語、日本文化を伝えている。

日本との初めての出会い「特撮」

日本との出会いは、12、3歳の頃テレビで見た「世界忍者戦ジライヤ」とか「巨獣特捜ジャスピオン」とかの特撮モノ。ポルトガル語の吹替放送だったので、毎回、終わりの画面に「つづく」って日本語で出るんですよ。当時は読めなくて「なんだろうなあ？」って気になっていました。その後、漢字に興味を持つようになって、書道を習い始めました。習字は今でも続けていますが、書き順にも意味があることや、文字が人の心を表していることなど、すごく興味深くて面白かったです。

17才のとき、通っていた公立学校に日本語のクラスがあって、そこで初めて日本語をきちんと勉強し始めました。その時の先生がすぐに辞めてしまい、別のところで勉強を続けたいと思っていたときにたまたま見つけたのが「明日香塾」でした。日本からブラジルに移住した一世の林原和子先生という方が始めた日本語学校でした。

最初は信用されていなかった

日本文化に興味はありましたが、当時私が住んでいた町からリベルダーデの日本人街までは車で2時間くらいかかり、ほとんど行ったことがなかったですね。日系人の友だちもいなかったし、日系団体があることは知っていたけれど、非日系の自分にはちょっと近寄りづらい場所だと思っていました。

林原先生は、私が初めて話した日本人でした。先生にとっても、私が初めての非日系の生徒だったので、最初は「なんでこんなに大きな（いかつい）ブラジル人が日本語を？」と、警戒していたと思います。先生が教室にお金をわざと出しっぱ

なしにして、^{わたし}私^{めす}がそれを盗^{ため}むかどうかを試したこともありました。「非日系に
にほんご
日本語はできない」と、はっきり言われたこともあります。そんな先生^{せんせい}の気持ちも
すごくよくわかります。でも「私^{わたし}は先生^{せんせい}が思^{おも}っているようなブラジル人^{じん}ではないで
すよ」「人のものを盗^{ひと}っていけないことなど、両親^{りょうしん}からちゃんと教^{おそ}わっています」
という話^{はなし}をして、先生^{せんせい}との信^{しん}頼^{らい}関係^{かんけい}が少^{すこ}しずつできていきました。その後^{あと}、明日香^{あすか}
じゆく すこ
塾^{じゆく}には少^{すこ}しずつ、非日系^{ひにっけい}の生徒^{せいと}が来^くるようになりました。

「明日香塾」が存続の危機に

はやしはらせんせい にほんご にほん ぶんか おし なに
林^{はやし}原^{はら}先生^{せんせい}は、日本^{にほん}語^ごだけでなく、日本^{にほん}の文化^{ぶんか}も教^{おし}えてくれました。何^{なに}よりも、
にほんじん こころ ひと あ かた おそ
日本人^{にほんじん}の心^{こころ}、人^{ひと}としての在^あり方^{かた}などを教^{おそ}わりました。
こうれい はやしはらせんせい にほん きこく せんせい ねんかん
高^{こう}齢^{れい}になった林^{はやし}原^{はら}先生^{せんせい}が日本^{にほん}に帰^き国^{こく}することになったとき、先生^{せんせい}が50年間^{ねんかん}もの
あいだ つづ がっこう いや
間^{あいだ}ひとりで続^{つづ}けてきてくれたこの学校^{がっこう}がなくなってしまうなんて嫌^{いや}だ、どうしよ
う！と悩^{なや}みました。当^{とう}時^じ私^{わたし}は24歳^{さい}でしたが、この学校^{がっこう}をどうにかして続^{つづ}けたいと
おも せんせい そうだん じん わたし つづ むり
思^{おも}いました。先生^{せんせい}に相^{そう}談^{だん}しましたが、ブラジル人^{じん}の私^{わたし}がひとりで続^{つづ}けることは無^む理^り
だろ^いうと言^いわれました。でも、ク^{つづ}ラ^ぶとしてでもいいから続^{つづ}けられないだろ^いうかと
かんが せんせい にほん きこく いちどがっこう へいこう かげつご
考^{かんが}えました。先生^{せんせい}が日本^{にほん}に帰^き国^{こく}して一^い度^ど学^が校^{こう}は閉^{へい}校^{こう}となりましたが、4カ^か月^{げつ}後^ごに、
もとせいと でんわ いっしょ にほんご べんきょう あつ
元^{もと}生^{せい}徒^とたち^ちに電^{でん}話^わやメ^めー^いル^るで「一^い緒^{しょ}に日^に本^{ほん}語^ごを勉^{べん}強^{きやう}するク^くラ^らブとして集^{あつ}まらない
か」と呼^よびかけました。

わたし あつ せいと ま せんせい よ
私^{わたし}は、集^{あつ}まった生^{せい}徒^とたちからいつの間^まにか「先生^{せんせい}」と呼^よばれるようになっていき
ました。その後^{あと}、日^に本^{ほん}語^ご教^き師^しの資^し格^{かく}を取^とり、明^あ日^{すか}香^{じゆく}塾^ひを引^ひき継^つぐと決^きめました。
あすかじゆく きも おお
とにか^あく、明^あ日^{すか}香^{じゆく}塾^ひをなくしたくないという気^き持^もちが^{おお}大き^おかったです。

にほんご たの 日本語は楽しい！

すこ であたら せいと あつ あす かじゆく
少しずつ口コミやインターネットで新しい生徒が集まるようになり、明日香塾
いま さい さい にん まな にん にっけいじん にん ひにっけい
では今、12才から65才までの44人が学んでいます。17人が日系人で、27人は非日系。

す にほんぶんか す にほん い もくてき
マンガやアニメが好きだったり、日本文化が好き、日本に行ってみいたいなど目的は
ひと
人それぞれですが、みんなが一緒に楽しみながら勉強しています。私が話す

にほんご せんばい せいと ご こうはい せつめい せんばい
日本語を先輩の生徒たちがポルトガル語で後輩たちに説明したり、先輩たちの

にほんご かいわ はや ま あたら せいと ひっし
日本語会話に早く混ざりたいと、新しい生徒たちが必死にがんばったり。

じゅぎょう いがい しゅうじ りょうり たの
授業以外にも、習字、料理、ゲームやカラオケなどもしています。楽しみながら
せいと き きょう じゅぎょう
やることで、生徒たちはもっとやる気になります。今日もさっきまで授業をしてい
じゅぎょう お かい きょうしつ のこ せいと
ましたが、授業が終わっても帰りたくない、教室に残っている生徒がたくさん
います。

ことば べんきょう はいけい ぶんか まな わたし なか
言葉を勉強するときには、その背景にある文化も学びます。私の中に、「もっと
し おも おも いま つづ せいと
知りたい」という想いがあって、その想いが今もずっと続いている。たまに生徒た
せんせい むずか い とき むずか かんが
ちが、「先生、これは難しいよ～」と言ったりしますが、そんな時は、「難しく考
おもしろ つた かんじ な た れきしてき はいけい し
えないよ、面白いんだから！」と伝えて、漢字の成り立ちや歴史的な背景、知らな
し たの つた せいと たの
かったことを知ることをの楽しさを伝えるようにしています。生徒には、楽しそうな
ひょうじょう かい たの がっこう
表情で帰ってほしい。だから、とにかく楽しい学校にしたいんです。



ちゅうおう あす かじゆく せいと
フェリッペさん（中央）と明日香塾の生徒たち

にほんごいじょう にほんじん こころ つた 日本語以上に、日本人の「心」を伝えたい

たの 楽しい！」というおも つづ たいへん かんが
「楽しい！」という想いで続けているので、大変さはあまり考えません。

もちろんコロナでひと あ こと じゅぎょう とき
もちろんコロナで人と会う事ができなかつたり、授業ができなかつたりした時は

たいへん せいと きも ひ かんが
大変でした。どうしたらオンラインでも生徒の気持ちを引きつけられるかを考え

かんじがくしゅう たいせん つく たいへん
て、漢字学習のための対戦ゲームも作りました。大変でしたけれど、そのおかげで

いま じゅこう せいと
今、オンラインで受講する生徒もできました。

がっこう ばしょ たいせつ なかみ にんげん
学校というのは「場所」ではあるけれど、大切なのはその中身である「人間」

こころ はやしはらせんせい まな けいえい うえ かね
であり「心」だということを、林原先生から学びました。経営する上でお金は

ひつよう あと おも にほんご
もちろん必要だけど、それは後からついてくるものだと思っています。日本語を

おし いじょう にほんじん こころ おし たいせつ つた せいと
教える以上に、日本人の心を教えたいんです。そこを大切に伝えることで生徒たち

か まわ ひと すこ か しゃかい うちがわ
が変わり、周りの人たちも少しずつ変わっていける。ブラジル社会を内側から

か おも
変えていくこともできるとしています。

おんし さいかい ことば 恩師との再会でかけられた言葉

せんせい にほん きこく ねんご かなら あ い やくそく
先生が日本に帰国するとき、「2年後に必ず会いに行きます」と約束しました。

それから2年経って、ねんた どうにかして にほん い かんが ちちおや
それから2年経って、どうにかして日本に行けないかと考えていたときに、父親

から「にほん い れんらく たから あ
から「日本に行けるぞ！」と連絡がありました。なんと、宝くじに当たったと

いのです！ そのおかげで う はじ ひこうき の にほん い はやしはらせんせい
いのです！ そのおかげで生まれて初めて飛行機に乗り、日本に行って、林原先生

さいかい
に再会することができました。

せんせい にんちしょう すず わす わたし て
先生は認知症が進んで、ブラジルのことをだいぶ忘れていましたが、私の手を

にぎ おとこ な い わか ぎわ くん
握って「男は泣かないよ」と言いました。そして、別れ際に「もうフェリッペ君じ

しっかり^{そだ}育て^{うれ}てきていることが嬉しいです。



生徒たち^{せいと}と^{つく}作った「あおいくま」のぬいぐるみ^{かか}を抱えて